

## 明日香村小山大字所蔵 百貫川関連絵図について

**はじめに** 筆者は、明日香村の土地利用や集落の変遷に関わる資料として、村内に残る古地図や古写真を調査してきた。今回は、明日香村小山大字が所蔵する百貫川関連の絵図に関わる取り組みについて報告する。

**調査経緯** 2020年秋、明日香村文化協会にて筆者が講演をおこなった際に、明日香村小山在住の上田正弘氏から、小山大字が所蔵する百貫川関連絵図について相談をうけた。後日、改めて小山の集会所を訪問したところ、上田氏から3点の大型の絵図と、7点の図面類を示された。これらは小山大字を流れる百貫川の取水をめぐる水争論に関わる資料や、土地台帳の調査に関わる資料であった。百貫川は、明日香村飛鳥にある堰で飛鳥川から取水し、橿原市にかけて北流する。この川の用水をめぐる水争論が何度も起きており、3点の大型の絵図はその訴訟に関わる資料とみられた。しかし、経年により傷みが進行し、紙の継ぎ目がはがれたり、一部の紙がスダレ状に劣化したりしており、日常的な使用や閲覧、保存にも支障をきたしていた。

そこで、小山大字の総代・住民と相談し、特に傷みの激しい百貫川関連絵図3点について、文化財調査および地域における活用と安定的な保存を企図した処置をおこなうこととした。処置にあたっては、株式会社修美の協力を得た。まず、2021年度に最も劣化が進んでいた絵図1点を、2022年度には残り2点について保存活用にむけた処置をおこなった。こうして、旧裏打紙の除去、継ぎ部分の糊挿し、裏打ち（2回）の工程を経て、絵図が安定的に閲覧・保管できる状態になった。予算の制約から表装などはせず、仮巻と中性紙保存箱を新調して保管する事とした。

この結果、3点の絵図は閲覧可能な状態になったものの、筆者の異動や配属先部署の業務の都合から、2023年は明日香村に行く機会を持つことができなかった。2024年2月、飛鳥資料館の竹内祥一郎研究員の協力を得て、小山の集会場にて絵図の見学会を開催し、ようやく住民にお披露目することができた。絵図を目にした住民からは、保存活用に向けた処置への感謝の言葉や、地域の歴史に対する質問、思い出話や昔話が語られた。

**百貫川絵図について** 次に明日香村小山大字所蔵百貫川関連絵図3点の概要を述べる。絵図は東を上とし、飛鳥川が南（右）から西（下）へ蛇行して流れる。百貫川は、飛鳥川の取水口から水を取り入れ、飛鳥・雷・奥山を通り、小山の東部で分流し、小山・木之本・南浦へと北（左）へ流れる。絵図では、小山の田地や山、下八釣の田地、他村や山、川、道などが着色される。

**絵図①下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図** 裏面の貼紙から、小山村と下八釣村の立ち合いのもと絵図を作成し、連判したことがわかる（図48）。連判の署名は後半が失われ、下八釣村庄屋の宗三郎の署名のみが残る。

**絵図②下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図写** 2021年の調査時に、継ぎ目が外れて一部は欠損し、紙もスダレ状に劣化していたものを補修した（図49）。絵図の記載は絵図①と似るが、村領の表記や灌漑施設の書き込みなどには省略が目立つ。一方で、本図のみの記載もあげられる。第一に、法然寺の北西の百貫川の分流地点に「三分下八釣」「七分 木ノ本」と記される。絵図①は傷みのため、当初の記載は不明だが、残存部にこれらの記載の痕跡はない。第二に、香久山西の百貫川から水路が分岐する島状の土地に「木ノ本領」と記される。また、下八釣村の宮の東の田の南端を細長く区画して「田とう□し」と書かれている。絵図①にこれらの記載はない。また、裏面には、下八釣村庄屋惣三郎に続き、下八釣村年寄、小山村庄屋、年寄ら4名の名が載る。下八釣村の庄屋は絵図①では「宗三郎」と書かれるが、絵図②では「惣三郎」と記されている。

**絵図③下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図写** 絵図の北西端の記載から、井手妨害の争いが起きた際の証拠として明治23年12月1日に作成された写しとわかる（図50）。絵図①の欠損部は描画せず、細部の表現まで絵図①の忠実な再現を意図して制作されているようだ。裏面貼紙の署名は下八釣村庄屋の宗三郎のみが記される。

以上の点から、絵図①の写しが絵図③と見られる。絵図②は、絵図③よりも先行して、絵図①を参照しつつ新たな知見も加えて作成された可能性が考えられよう。今後は、これらの絵図作成の背景の研究を進めたい。

本稿は、JSPS科研費JP17K01221「展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査」の成果の一部である。  
(西田紀子)



図48 下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図 天和2年(1682) 925×2247mm



図49 下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図写 年未詳 828×1956mm



図50 下八釣村・小山村百貫川水論立会絵図写 明治23年(1890) 955×2417mm